

オーストラリアの有機農産物事情

玉井 哲也



キングス・クロスの有機食品市場。有機果実

オーストラリアでも、日本の有機JASと同様に、有機農産物の基準があり認証機関が認証する仕組みが整備されている。農薬や化学肥料を使わずに栽培・製造されることから、健康志向の消費者に評価されて、有機農産物の生産は伸びているとされている。もっとも、有機農産物の生産や流通を継続的に調べている政府の統計は見

当たらない。また、有機農業・有機食品の推進を目的とする団体として、「オーストラリア有機連盟」があり、2001年に定めた戦略の中で2006年には有機農産物のシェアを農業生産物全体の4%にするとの目標を示しているものの、有機農産物の生産量を調査している様子はない（ちなみに、同連盟の資料では2001年にはこの数値が1〜1.5%となっていたが、農水林業省の報告では、2003年で0.4%と推定）

そのような次第で、生産の実態は統計からははつきりとはせず、日常の生活では、認証を受けた有機農家を実際に見る機会もない。ふだん接する機会があるのは、小売りされている有機農産物である。

筆者は、去る3月に豪州を訪問した際、シドニーの有機食品市場を訪れた。

訪れたのは、オーガニック・フード・マーケット社がシドニー市内で定期的に開設している有機食品市場8カ所のうち、キングス・クロスの市場。シドニー中心部から東へ約2km、キングス・クロスのフィッツロイ・ガーデンズ公園で、毎月第2、第4土曜日午前7時〜午後2時に開設されている。公園の約半分、40メートル四方程度に、30ほどのブースが並び、青果、飲み物・サンドイッチ類、ベーカリー・菓子、オリーブオイルなどの加工

品、苗・鉢物、食肉、卵が売られている。装飾品や衣類の店もある。全部が有機の店ではないが、店ごとに「有機」、「有機の材料を使用」、又は「非有機」という掲示版を掲げている。混雑にはほど遠いが、それなりに客は来ている様子。犬を連れた人も見られ、周辺住民の来訪が多いと感じた。

巡回している市場管理者に、スーパーマーケット等との競争について話を聞いた。スーパーよりも、安く新鮮なので、スーパーマーケットに有機コーナーができて影響はなく、売り上げは伸びている、との説明があった。

本当に安いのか、その足で、シドニー中心部（市庁舎の向かい側）のスーパーマーケット「ウルワース」に移動し、比較してみた。ロイヤル・ガラリんこの1kgの値段を比べると次の通りであった。

有機食品市場(有機)	5.80豪ドル
スーパー(有機)	7.98豪ドル
スーパー(非有機)	2.93豪ドル

なるほど、キングス・クロスの有機食品市場の方が安い。それに、スーパーマーケットの有機りんごは、予め1kg入りの袋詰めがされており、買手は数量、個体を選択することができない。

ちなみに、同じウルワースの中で比較すると、有機りんごは非有機りんごに



キングス・クロスの有機食品市場。有機野菜・卵

して2・7倍もの大きな価格プレミアムがついていることになる。なお、ウルワースの生鮮食品売り場は140坪ほどあるなかで、有機野菜・果実が並んでいる台はせいぜい1坪強の大きさ。あまり人気のあるコーナーには見えなかった。

ところで、この市場を運営するオーガニック・フード・マーケット社は、もともとロンドンで有機食品市場事業を開始した会社で、イギリスから進出してきた。オーストラリアとイギリスとの結びつきがなお強いことを示す一例かもしれない。また、シドニー有機食品市場では、インターネットを使っている通信販売・配達も行っている。もっとも、日本は配達地域外のようなのである。